

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		子育てサポートいろは園		公表日 2025年3月4日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・個室にて1対1の個別支援を中心に行っている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・基本的に言語聴覚士などの専門資格を持った職員が支援を行っている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・広すぎない個室での取り組みを中心に行っており、可能な限り刺激などの情報を減らしている。	・建物の構造上、完全なバリアフリー化が難しい。玄関や階段上のドアの施設など安全対策を実施している他、危険箇所は職員間で共有し配慮している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・個室の部屋が多数あり、子供に合わせた選択が出来る環境があります。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・来所から降所まで個室での取り組みが中心となっている。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		・第三者評価を実施していない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・概ね月1回程度、内部研修やケース検討の機会を設定している。自主参加の外部研修に関しては、費用補助制度などを整備している。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・子どものニーズや状況に応じて、言語面を中心に柔軟なアプローチを行っている。	・子どもに合わせたアプローチを行っている反面、公表しているプログラム内容が抽象的になっている。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		・言語聴覚士などの専門職の視点を取り入れながら作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			・1対1の個別支援及び担当制であるため、関わる職員のみで主に共有しており改善の余地がある。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・言語聴覚士などの専門職の視点を取り入れながら作成している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。		○	・必要に応じて、言語以外の領域の支援を実施している。	・1対1の個別支援を中心としているので、事業所での集団活動の機会がほほない。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・職員複数名で支援を行うときは実施している。	・1対1の個別支援及び担当制であるため、チームで支援する機会が少ない。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・職員複数名で支援を行ったときは実施している。	・1対1の個別支援及び担当制であるため、チームで支援する機会が少ない。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
23	定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○				
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。		○	・直接担当者が会議に参加できない場合、児童発達支援管理責任者などの職員が子どもの現状について申し送りを受けて参加している。	・支援を行っている時間と会議日程が重なった場合、直接担当の参加が難しい場合がある。	
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○				

関係機関や保護者との連携	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・事業所の利用は週1回を基本としており、通園や他事業所利用を行う機会を確保している。 ・保護者同伴であるため、保護者を通して園との情報の提供を行うことができる。	・人員の都合上、関係機関との会議以外では直接情報共有する機会や時間が限られている。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		○	・一部の利用者を除いて保護者を通した情報提供が主となっている。	・人員の都合上、関係機関との会議以外では直接情報共有する機会や時間が限られている。
	28	(28～30は、センターのみ回答) ----- 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		・地域の情報共有の為の会があり、そちらにて連携を図っている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		・保育所等訪問支援や単発の施設見学等以外、交流は少なく今後の課題と捉えている。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・保護者同伴のため、日常的に現状や課題などの共有を行うことができる。	
保護者への説明等	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		・ペアレントトレーニングを実施している。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		・契約時に実施している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		・保護者同伴のため、日頃より家族の意向を確認している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・保護者同伴のため、日常的に相談を受けられる環境となっている。状況に応じて、利用とは別に面談日を設定している。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		・人員の都合上、実施できていない為、今後の課題と捉えている。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・保護者同伴であることもあり、迅速な対応を行いやすい環境である。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			現在、紙ベースでの伝達が主であり、SNSなどの活用が今後の課題と捉えている。
非常時等の対応	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			・子どもに合わせた個別支援を中心としているため、訓練も個別対応で実施している。
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的な避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			・まだまだ周知が不十分と感じており改善を常に考えていきたい。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			

52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・1対1の個別支援及び保護者同伴を基本としているため、虐待が起こりにくい環境ではある。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		・保護者同伴であることや刺激や不要な情報が少ない個室での活動が主であるため、個室入室後は身体拘束が起こりにくい環境ではある。	